

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 特定非営利活動法人 小島バラ会

事業の名称	心豊かにバラづくり街づくり	
事業の目的	<p>(解決すべき地域課題と市民ニーズ)</p> <p>環境意識の高まりや草花の「いやし」効果により、ガーデニングや家庭菜園を楽しむ人が増加している。</p> <p>一方で地域住民のライフスタイルの多様化や高齢化などにより、住民の交流が徐々に希薄となりつつある。</p> <p>そこで、バラを核にした植物の栽培を通して、地域住民同士の連帯感を高め、花卉であふれた美しいまちづくりに貢献する。</p>	
事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)	対象	<p>(どこで、だれに等)</p> <p>射水市内公共施設や、公園を対象に射水市住民を対象に進め、市街の人とも交流をめざす。</p> <p>花壇について小島第6公園にバラ園を造成し、大島地区を中心にバラの愛好者を誘い、射水市全体へと展開する。</p>
	手法	<p>(いつ、どのように、何を等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設にバラを飾り、人々に安らぎを与える。病院、駅、市庁舎、等にバラの生花を展示する ・ 公共施設で花祭りを開催する。バラの生花や花苗を展示し、バラの飲食物を提供する。バラに関する(絵画写真書手芸)品物を展示提供する。地元演奏家を招きコンサートを開く。 ・ 7月までにバラの生育に適した花壇を造成し、8月以降バラの苗を植え、バラ園をつくる。
	目標	<p>(目的とする結果、数値基準等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バラを生かして射水市内に公共サービスを提供する。 ・ 射水市や大島をバラがあふれる街にする。 ・ 公園を楽しく散歩してもらい、くつろげる場所にする。 ・ 他地区からバラ園を訪れてもらい、だれもが心豊かになれるようにする。
協働事業として取り組むことの必要性	<p>(団体や行政の特性から説明してください。)</p> <p>市管理の公園は花も少なく人も訪れない。市管理の公園に花に優しい花壇を作り、バラ園を造成したい。そして、地域住民が運営管理にも参加し、手入れの行き届いたきれいな公園にする。</p> <p>環境保護・温暖化防止業務や住民への指導においてもこの活動から人々に訴えることができ、住民が自然や農業に関心を持つことにもなり、街づくり街おこし、しいては観光振興のためにも役立つ。</p>	

<p>役割分担</p>	<p>(提案団体が果たす役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設へのバラ展示 ・ バラの育成、花壇の整備や管理 ・ バラ育成の教育と技術改良 公園に植えるバラ苗の育成と、美しく人々を魅了するバラの木の育成技術を作る。 ・ 愛好家・協力者の育成（作業者を増やす） ・ 地域住民の交流事業（住民にサービスを提供する） <p>(事業実施に伴う市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設でのバラ展示の協力 ・ 行事と活動の市民への案内（市広報、ケーブルTV等） ・ 関係団体組織への協力依頼の支援 （営農、JA、緑銀行、商工会、教育委員会等との協力） ・ バラ花壇の整備助成
<p>事業スケジュール (別紙添付でも可)</p>	<p>(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール)</p> <p>5月 公共施設バラ展示 6月 花祭り開催 7月 花壇施工 第1期（全花壇の1/2 北側） 8月 苗植え 9月 バラ教室開催 10月 花祭りコンサート開催 バラ教室、清掃、子ども交流を平行して実施する。 次年度 花壇施行第2期（南側）実施</p>
<p>事業効果</p>	<p>(事業に取り組み、市民がどのような効果を受けるか。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設にバラの花が展示され、市民に「いやし」が広まる。 ・ 行事を行うことにより、人々の交流が生まれ連帯感を高める。 ・ 市内のバラ愛好家の交流と協力関係が進んでいく。（高岡バラ会、小杉庁舎花壇ボランティアなど） ・ 花壇づくりをすることで、花を愛する心を育てる。 ・ 公園に心を豊かにするバラの花壇ができあがり、美しいバラの花があふれる。 ・ 人々が遊びに訪れ、笑顔があふれる楽しい公園になる。 ・ 植物や農業、自然を大事にする気持ちが育っていく。 ・ バラ公園という観光の芽やバラの花という名産の芽が生まれる。
<p>事業展開</p>	<p>(協働事業終了後の事業展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市に頼らないバラ会や住民による公園管理を進める。 ・ バラ会や愛好家、住民の参加を働きかけ、活動を進める。 ・ バラ花壇の拡張と周辺の畑や家庭花壇へも花を展開し広める。 ・ 活動に必要な設備を整備する。（トイレ、休憩、風雨よけ設備、民間設備活用） ・ バラや花に関する特産品や、飲食による収入源を作り出す。 ・ 観光・名産として発展させ、仕事や収入源を生み出す。

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 NPO法人水辺のまち新湊—日本港湾経済学会北陸支部みなとガイド塾実行委員会—

事業の名称	“みなと” (内川・新港) ガイド養成塾	
事業の目的	<p>目的は次の三つである。</p> <p>(1) 昔からの湊である内川そして新しい港の富山新港とその周辺を訪れる人たちに解説を行っている唯一つのボランティア団体は「あゆの風新湊」であるが、現会員の高齢化と少人数化は危機的状況にある。少しでも若い世代 (60歳台以下) のガイドを増やしたいために、2009年度に私たちが実施した「内川・新港散策マップ・コース・解説書作り」の成果を駆使して新機軸のガイド塾を開き、魅力あるみなとのガイドを養成したい。</p> <p>(2) この塾を通して、地元住民が新湊の長い歴史とみなとを持つ郷土の歴史をあらためて知り、未来を背負うこの地の子供たちへ誇りを持った語り部になることにより、地域おこしの力は一層強化される。</p> <p>(3) 北前船時代を通して深いつながりのある伏木、岩瀬、新湊の港まち住民間の交流を通して海上航路で繋がる一体化した地域活性化策を考える契機とする。</p>	
事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)	対象	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークは観光船に乗って、富山新港と内川で行う。 ・散策コースは内川周辺を歩いて行う。 ・講義形式の塾は新湊勤労青少年ホームの会議室で行う。 ・対象は高校生以上とするが、内川沿いの住民、地元の高校生・大学生及び子育て中の主婦層等の積極的参加に期待をかける。 ・射水市に勤務する内川・新港関係の職員参加も呼び掛ける。
	手法	<ul style="list-style-type: none"> ・7月、8月、12月、3月に2回ずつ次の内容の塾開催を行う。 ・海王丸パーク～川の駅～いくつかの内川沿い街並み散策コースを設定して、現役ガイドのもとで実地研修する (2回)。 ・実地研修の後、講義形式で勉強会をする (4回)。 ・各自の持ち味を生かしたガイドの実践をオン・ジョブ・トレーニング方式で行う (2回)。 ・岩瀬と伏木の港町に出かけてみなとまちガイド交流会を行う。
	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・5名から10名程度の新人ガイドが巣立ち、観光ボランティア団体の「あゆの風新湊」に加入してもらえるようにする。 ・この塾を通して、地元住民が郷土について理解を深め、新たな地域おこしに波及していくことが期待できる。
協働事業として取り組むことの必要性	<p>みなとまちづくりをより実りあるものにするために必要なことは地域住民の積極的関わりと行政関係者による“みなと”に関する歴史の把握である。生まれたばかりのNPO法人「水辺のまち新湊」を活かすためにも、“みなと”ガイド育成塾事業を通して、住民と行政担当者が協働して“みなと”の歴史と現状を実践的に学び合うことで、地域おこしが当該NPOを軸に地域住民を巻き込んで本格的に進められ、この事業を通して、新しい港としての富山新港と歴史ある湊としての内川を軸にした地域おこしの施策がより充実し、総合的に行われることになる。</p>	

<p>役割分担</p>	<p>実行委員会の構成と役割 NPO 法人水辺のまち新湊のもとに、2009 年度に実施してきた「内川散策マップ・コース・解説づくりグループ」の主たるメンバー（地元住民）が引き続き“みなとガイド育成塾実行委員会（委員長は両宮洋司）”を結成して、その成果を活かした内容の育成プログラムを作成して進める。講師陣と塾勉強会は日本港湾経済学会北陸支部（支部長両宮洋司）の支援を得て行う。当該 NPO 法人が取り組む各種の内川活性化事業と調整を取りながら進めることになる。</p> <p>市役所との関連 塾生募集についての広報 現施策との整合性 施策専門家としての講師、アドバイス 市職員の積極的参加 情報の交換、提供、共有 関係機関との連絡調整</p>
<p>事業スケジュール (別紙添付でも可)</p>	<p>6月 実行委員会結成、役割分担、塾開講日程・内容決定、広報依頼 6月 塾生募集、講師陣、コース決定 7～8月 4回開講（夏季塾）、岩瀬港まち見学と住民交流 12～1月 2回開講（冬季塾）、伏木港まち見学と住民交流 3月 2回開講（仕上げ塾）、報告書作成（含 育成塾のありかた提言）</p>
<p>事業効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティア「あゆの風新湊」構成員の若返りと人員の増加 ・参加者自身が富山新港と内川に深い知識と理解をして多様な地域おこしの原動力になる。 ・関係の市役所職員による“みなと”理解が一段と進み、よりよいまちづくりへの一助になり、この事業を通して得られた市民との連携・情報交換は住民の目線に立つ行政を加速する。 ・この事業の経験を通して、まちおこしを担う NPO 法人のノウハウが蓄積され、NPO としての力量が高まる。
<p>事業展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の事業が成功裏に終わった場合、次年度以降も、行政任せではないこの（みなと観光）ガイド育成事業が定例化することが期待される。 ・さらに、この事業を内川・富山新港周辺の小学生・中学生にも広げ、子供たちが誇りを持って自分たちの郷土を語ることが出来るようにしていきたい。その結果、この地域の活性化事業に若者が積極的参加していく素地が出来ると考える。 ・この事業の試みを契機に、みなとを核にした住民と市職員の協働化をすすめ、内川周辺と富山新港周辺のまちおこしが自らの手で力強く進める意識の改革にも寄与していくことになろう。 ・新湊、伏木、岩瀬の港まちの住民交流が定期的に行われることにより、伏木富山港を構成する 3 地域のみなとまち発展に寄与することが出来る。

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 ふらっと

<p>事業の名称</p>	<p>～こった煮、ワールドあんたも来られ！～ かちやカチャ ^{ね、ちゅう} ^び 牽丸 遊 陽</p>	
<p>事業の目的</p>	<p>(解決すべき地域課題と市民ニーズ) 「ふらっと」は在宅福祉サービスを中心とした活動の中で、障がいのある方、お年寄りなどの「社会の中にいたい」という願いによりそって10年目を迎えます。介護職の人材不足や、次の世代を担う若年層の福祉離れが叫ばれる早速このイベントによる活動を通して人材発掘、人材育成、あるいは一般市民への社会啓発のきっかけづくりを</p>	
<p>事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)</p>	<p>対象</p>	<p>(どこで、だれに等) ・公募によるプロジェクトチーム(ふらっとボランティア、学生、クリエイター、当事者家族など)を立ち上げ、障害のある方、お年寄り、こどもなど本人参加で感謝イベントを企画、運営、開催する ・会場未定、プロジェクトチームで話し合う</p>
	<p>手法</p>	<p>(いつ、どのように、何を等) ・ふらっとの活動を通して当事者とあらゆる立場の市民、行政が、各々の願いを社会にアピールする表現活動をDVD製作、アート、パフォーマンスなどの使、て行う。 ・今まで福祉とは無縁だった方々を集客できるようなメッセージ性のあるアーティストのコンサートを企画、実行する。</p>
	<p>目標</p>	<p>(目的とする結果、数値基準等) ・あらゆる立場の方々が「生きてよかった」と思えるような時間と空間を共有し、どんな立場になっても安心してらせる射水市を行政と共に作る意識のきっかけになりたい。</p>
<p>協働事業として取り組むことの必要性</p>	<p>(団体や行政の特性から説明してください。) ・地域の中で障がいのある方、お年寄り、その他、生きにくさを抱える方々と共にくらししていくには、福祉サービスや、家族の頑張りがだけでは限界がある。市民や行政と共に取り組むことで、一方向の視点、よりも双方向の視点で、何が必要なのか見い出して、具体的方法が見えるのではないかと思ひ、協働事業として取り組みたい。</p>	

<p>役割分担</p>	<p>(提案団体が果たす役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア、市民の人材発掘、育成 ・イベントの企画、運営 ・当事者と行政、市民のパイプ的役割 <p>(事業実施に伴う市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報などでPR ・表現活動に参加 ・会場設置などの人的協力
<p>事業スケジュール (別紙添付でも可)</p>	<p>(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール)</p> <p>4月下旬、ボランティア募集、プロジェクトチーム編成</p> <p>5月 企画発案、選考、アーティスト選考</p> <p>6月 DVD作成、表現活動企画</p> <p>7月 イベントPR開始、1~2月 報告書作成</p> <p>8月 いちかみしまりでPR 3月 活動報告</p> <p>9月 打ち合わせ PR活動</p> <p>10月 本番準備 PR活動</p> <p>11月 - 12月 本番</p>
<p>事業効果</p>	<p>(事業に取り組み、市民がどのような効果を受けるか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者、福祉関係者のみならず、市民と行政、大人から子どもまで色々ば人が関わることで、福祉サービスだけでは限界のある、当事者のくらしを地域の中で支える方法を見つけさせる ・当事者とのかかわりの中で本人の思いを聞き、現実的な姿を学べる。(美談や、偶像ではなく) また、ユトといわれる福祉職のおもしろさ、たいにみを味わってもらい、仕事として紹介する。
<p>事業展開</p>	<p>(協働事業終了後の事業展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日的な当事者のニーズを掘り起こし、今後の福祉サービスや福祉制度に反映させる。(行政、事業者、福祉に全く興味のない潜在的介護職の発掘や、当事者を見守る一般市民への意識づくりの取り組みをすま) (ふらとDVD販売、イベントボランティアをきっかけに福祉現場の日常でボランティアをしてみよう) ・表現活動による障がいのある方と若者のコラボ作品を一般のギャラリーなどで展示、販売する

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 いみず野まるごと「写真展」実行委員会

<p>事業の名称</p>	<p>いみず野まるごと「写真展」実行委員会 ・写真コンテスト ・ふるさとの歩みフォトコンテスト</p>	
<p>事業の目的</p>	<p>(解決すべき地域課題と市民ニーズ) 1 写真を通して香り高い文化の向上を図り、成人と子どもたちの心の豊かさを培うことをねらいとします 2 豊かな自然、社会、活力ある人々の暮らしを表現することが、市民の豊かな生活の一環となり、郷土愛をはぐくむ手助けとなります 3 歴史を考察することで、自然に富んだふるさと射水市を再認識することができます 4 写真を小、中学校の郷土学習資料として活用します。</p>	
<p>事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)</p>	<p>対象</p>	<p>(どこで、だれに等) 市内在住者や市内に職を有する者、写真愛好家、中、高校生のジュニアも対象とします。 その他の区域であっても、目的に賛同される限り対象者となります。</p>
	<p>手法</p>	<p>(いつ、どのように、何を等) 各地区の特色をいかしたフォトコンテストと連携しつつ、射水市の全イベントの集大成として、『いみず野まるごと「写真展」・写真コンテスト ・ふるさとの歩みフォトコンテスト』を企画します。 ・一般の部 ・ジュニアの部</p>
	<p>目標</p>	<p>(目的とする結果、数値基準等) 射水ふるさと再発見で平成22年11月に周年行事開催時に『いみず野まるごと「写真展」』を実施。 同時開催に、広く市民から古い(明治、大正、昭和)写真を募集します。射水生誕1300年をめざし資料を集めます。 貴重な写真を体系的、総合的に収集整理することで、散逸をふせぎ活用します。 展示場所は高周波文化ホール、アイザックラポールなどを巡回します。</p>
<p>協働事業として取り組むことの必要性</p>	<p>(団体や行政の特性から説明してください。) "射水野"は700年代より連綿と歴史が綴られていて、大伴家持が万葉集にも詠んでいます。記録という写真の特性から(いみず野)全般を撮りまとめることは大変意義があります。 射水の歴史を後世に伝え、住みたくなる市、誇れる市にするためには、射水市と市民の融合が不可欠のものです。 協働事業として融和することにより大きな効果が期待できます。</p>	

<p>役割分担</p>	<p>(提案団体が果たす役割) 写真愛好家、写真グループ、写真クラブ等に声をかけ、既存の写真、情報などを集めると同時に実行委員会のメンバーを集め、より強固なものにしていきます。</p> <p>(事業実施に伴う市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 広報、情報収集などに期待します。 ● 会場の提供（庁舎ロビー、公民館、社会教育施設） ● 定期交流会の開催（歴史的写真は専門的な判断能力や、資料保存技術を、博物館学芸員や図書館司書との共同研修を通して訓練をうけ、習得する必要があります）
<p>事業スケジュール (別紙添付でも可)</p>	<p>(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール) 別紙添付</p>
<p>事業効果</p>	<p>(事業に取り組み、市民がどのような効果を受けるか。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老若男女に郷土を愛する心が育ち一人ひとりが「いみず野」を誇りに想い、外部に自慢できるようになります。 2. 常設できると観光客誘致に効果があります。 3. 航空写真と地図の組み合わせを検証することで射水市の発展を表現できます。
<p>事業展開</p>	<p>(協働事業終了後の事業展開)</p> <p>古い写真を発掘することにより、いみず野の歴史として常設展示することができます。</p> <p>既存の庁舎を活用して写真美術館、または、ふるさと歴史資料館に発展させたい。</p> <p>現代の開発された感光材料で写真を表現、発表します。</p> <p>資料をデジタル化して保存すると、小、中学校、また、社会教育施設等で活用できます。</p>

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画

団体名 NPO 法人

こすぎ総合スポーツクラブ きらり

事業の名称	元気いっぱい！グラウンド芝生化	
事業の目的	<p>① 子供の心身の育成。成長途上の児童・生徒がグラウンドを芝生化することにより、園、教室に閉じこもることなく素足で園庭、校庭にでて「積極的に身体を動かせる環境下での身体能力の向上、心の豊かさが養われる」。</p> <p>② 地域コミュニティの形成。子供達が芝を植え、育てることによる「情操教育」保護者や地域住民の参加により「地域力」世代間の「触れ合い」豊かなコミュニティが展開される。</p> <p>③ 環境改善・温暖化のエコ教育。地球温暖化抑止は急務です、環境への影響評価などで、地域全体を巻き込んだ、エコ教育の1歩となる。</p>	
事業内容	対象	対象地域は、射水市、市内幼稚園、保育園、小学校グラウンド。幼・保育園児、及び小学校生徒、先生、夫々の父兄そして地域住民。
	手法	グラウンドに芝を敷き詰める従来の方法は費用も維持管理も大変。鳥取方式と言われる方法は、鳥取大学農学部の中野先生の研究や「グリーンスポーツ鳥取」のニールスミス氏の実践に基づき植え付け・維持管理する方法です。従来の 1/10 以下の経費でできる方法です。現在この方法での芝生化事業は全国的に展開されつつあります。国立競技場にある芝生、そんなイメージではなく身近にある芝雑草、これを刈り子供達に裸足で走りまわられる環境を作る芝です。
	目標	協働事業の事業展開する諸団体の選考。 団体等に芝生化の意義、取り組み説明、地域住民への広報講演。 芝生化の講習・実習。 植え付け、刈り込み、施肥の実施。 父兄、先生、地域住民参加への理解を得、事業の目的を達成する。
協働事業として取り組むことの必要性	<p>グラウンド芝生化には、事業展開するグラウンドが必要ですが、当クラブにはその用地の準備ができない。単独ではできない、難しい。</p> <p>地域住民、行政、団体、それぞれが情報提供をし、一致団結して初めてグラウンドの芝生化の実現の共同認識で協働事業が展開される。それら一致した取り組みにより、子供達の運動環境の向上を図る芝生化が実現できます。</p>	

<p>役割分担</p>	<p>クラブのネットワークを生かした芝植えの情報収集。 講師の招聘、研修会視察のアドバイス、先生、父兄、地域住民、行政など関連団体への協働参加への調整。 広報活動。労働提供。</p> <p>市が所有する情報の提供と実施予定地の選定。 地域住民の自治（例自治体・振興会・公民館）への働きかけ。 芝生化への関係機関への連絡網の整備。 資金面、運用面の継続した行政支援、。</p>	
<p>事業スケジュール 1年目</p>	<p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p>	<p>17日第4回全国芝生サミットパートI 視察研修会 芝植えや維持管理方法（講演、指導）</p> <p>8・9日同上パートII 視察研修会 選定地、団体等と芝生化の協働・共同認識の構築</p> <p>子供、父兄、先生、地域住民と共同で芝の植付け 施肥等準備、次日植付け、施肥、 子供達の運動評価を実施（前後比較の為）</p> <p>刈り込み開始、施肥</p> <p>刈り込み開始、施肥</p> <p>刈り込み開始、施肥 80～90%成育</p> <p>裸足運動会の開催</p>
<p>事業効果</p>	<p>大人のメリット 子供達と一緒に芝を見守り維持管理することにより、対話が出来てくる。子供達の成長が身近に感じられそれが大人の生きがいになる。芝の上は、子供だけではなく大人も素足で運動が出来怪我が少なくなる。地域全体で子供を育てる環境づくりの1つが芝生化</p> <p>子供のメリット 屋内から園庭・校庭が運動場所となり、裸足で走る子供も出てくる。身体運動能力が高くなる。精神的にもストレスへの影響は改善する。1人の遊びから複数多人数の遊びへと変化しより良い交遊に発展する。大人との共同作業で、近所のお父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃん、との交流で、地域を愛する心が芽生える。</p> <p>行政、団体のメリット 地域住民、行政、団体など様々な人とひとの一体感が育まれる。地域住民に開かれた、団体へと発展し、手を結ぶ住民参加型の社会を築くことができる。</p>	
<p>事業展開</p>	<p>芝生は手入れが必要で面倒、これをデメリットと捉えるかは、地域住民の子供への思い、熱意、地域が発展する為には次世代の子供達にかかっていきます。子供達の総合学習の一環になります。</p> <p>まず、1例のこの芝生化の協働事業がモデルケースとなり、継続支援することで全住民の健康推進への発展に広げていきたい。</p>	

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 旧北陸道アート in 小杉実行委員会

事業の名称	2010 鰻絵フェスティバル	
事業の目的	<p>(解決すべき地域課題と市民ニーズ)</p> <p>小杉地区では、伝統芸術の鰻絵を生かしたまちづくりの取組が行われている。また、鷹寺橋に隣接する旧北陸道沿いには、今日まで魅力的な歴史遺産・文化遺産が数多く残されている。</p> <p>私たちは、これらを保存、継承、創造、発展させ、鰻絵を通して土蔵、下条川の千本桜、歴史・文化の残る環境を生かし、地域の活性化や市民の心の故郷として機能する環境整備へ取り組むものである。</p> <p>この市民協働事業が“鰻絵のまち小杉”を全国に発信するまたとないチャンスとして位置づけ、最先端に行く商業空間ゾーンとは異なる切り口から活性化の可能性を実験し、地域としての意識の向上を図ることを目的とする。</p>	
事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)	対象	<p>(どこで、だれに等)</p> <p>県内外住民、近隣県観光客</p>
	手法	<p>(いつ、どのように、何を等)</p> <p>平成22年9月25、26日に「見る、参加する、学ぶ、展示する、演じる、味わう」をキーワードに鰻絵フェスティバルを開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【新規】鰻絵を2基新設し、新たに鰻絵マップを制作して鰻絵スタンプラリーを実施 (旧北陸道) ・鰻絵制作体験等のワークショップを実施 (森永酒店) ・【新規】鰻絵に関する座談会を開催 (竹内源造記念館) ・【新規】鰻絵を生かした先進各県の展示ブースを設け事例を紹介 (小杉展示館) ・アコースティックギターデュオのコンサート開催 (結城酒店) ・地元特産品を使った料理、デザートでもてなす (十社大神)
	目標	<p>(目的とする結果、数値基準等)</p> <p>イベントに合わせて鰻絵のまちをPR (鰻絵マップ配布等) し、小杉地区の新たな名所、スポットとしてアピールし、交流人口を掘り起こす。</p>
協働事業として取り組むことの必要性	<p>(団体や行政の特性から説明してください。)</p> <p>全国から人を呼べる地域づくり (鰻絵の街小杉) を全国に発信するにあたり、行政がもつ信用度・さまざまな情報や、民 (団体) がもつコミュニティーシンクタンクの、知のネットワークが必要なことを補い、具体的な事業になったときの支援体制を整えることにもつながる。</p>	

<p>役割分担</p>	<p>(提案団体が果たす役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土蔵の壁面に設置する鏝絵のデザインの募集 ・鏝絵スタンプラリーやワークショップの募集 ・イベントのアイデア・会場のデコレーション等の打合せ ・事業運営に携わる各ボランティアとの打合せ ・ポスター、鏝絵マップの作成及び広報活動（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など） <p>(事業実施に伴う市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報等での宣伝 ・シンポジウムや懇親会への参加（情報交換） ・情報の提供（射水市の海の幸、山の幸、こだわりの生産者） ・市が持つネットワーク（射水ブランド事業→富山大学芸術学部等）
<p>事業スケジュール (別紙添付でも可)</p>	<p>(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール)</p> <p>5月～ イベントに向けての準備（戦略会議） 実行委員会及び関係者との打合せ 壁面鏝絵制作</p> <p>6月～ ポスター、鏝絵マップ作成 ボランティア団体との打合せ</p> <p>8月～ 広報活動</p> <p>9月～ イベント準備</p> <p>9/25,26 鏝絵フェスティバルの開催</p> <p>10月～ 報告書作成</p>
<p>事業効果</p>	<p>(事業に取り組み、市民がどのような効果を受けるか。)</p> <p>大型SCやロードサイド店ばかりに人が集まるように考える人が多いが、そのような所だけを市民が望んでいるとは思わない。旧北陸道まちなみアート in 小杉のメンバーは、活動を通して、小杉に生まれ育った人が故郷を感じる場を求めているのではないかという仮説から、確かに求めているという確信に変わってきた。さらに鏝絵をアピールする取組に、旧町のみならず射水市民の多くがその魅力やアイデンティティを感じてもらえるものと期待する。</p>
<p>事業展開</p>	<p>(協働事業終了後の事業展開)</p> <p>地場産の情報発信拠点としての実験。(季節の食材を集めた試食会を開催するが、これを情報発信拠点やインターネットで販売することを試みる)</p> <p>戸破、三ヶ自治会を中心に、鏝絵の天才竹内源造の最高傑作「水と龍」を砺波の名越家から小杉に移転させる計画が進められているが、これを具現化するために、さらなる鏝絵のすばらしさを普及する活動を展開する。</p> <p>「鏝絵の街小杉」を全国に発信するまちづくりの盛り上がりを着着させるために、集客力、回遊性を高める社会実験を計画する。</p>

様式第2号(第6条関係)

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 インターナショナル海の駅 海王実行委員会

事業の名称	海王丸和楽コンクール	
事業の目的	<p>(解決すべき地域課題と市民ニーズ)</p> <p>1. 21世紀の日本の窓口になれる海王丸地域の活性化 2. 日本海地域諸国の交流の拠点作り 3. 志民&市民の余暇利用</p>	
事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)	対象	<p>(どこで、だれに等)</p> <p>海王丸パーク 市民および県外の公募 雅楽(笛・鼓・尺八)～太鼓～三味線～琴</p>
	手法	<p>(いつ、どのように、何を等)</p> <p>2010年 9月 4日(土) 11:00～15:00</p> <p>1. 市民～県外まで公募し、エントリーNOを部門に分類してステージで発表(個人～グループまでOK) 2. 審査は専門家と一般市民が行う(採点投票用紙を配布して合計審査) 3. 参加者、受賞者には射水の特産品をプレゼント 表彰状・トロフィーあり) 4. 市内のイベントに推薦し演奏機会も紹介。</p>
	目標	<p>(目的とする結果、数値基準等)</p> <p>海王丸パークの観光客を増やす 伝統芸能(神社～地域の祝い事、季節の節句に使う楽器や音)の継承</p>

<p>協働事業として取り組むことの必要性</p>	<p>(団体や行政の特性から説明してください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会場の設営に支援が必要 2. 人材の紹介が必要 (国際交流ネット：留学生にも実行委員に参加してもらい射水市を知る機会にしたい) 3. 射水市には神社も多く雅楽の愛好者も多く、その楽しさを発表する機会をつくりたい。(他の市町村に無いイベント)
<p>役割分担</p>	<p>(提案団体が果たす役割)</p> <p>地域の活性化 (賑わい創出) 国際交流 (留学生への参加要請) コンクール参加者公募のチラシ作成配布など準備</p> <p>(事業実施に伴う市の役割)</p> <p>広報の掲載・マスコミ対応 会場の警備、安全対策の支援が必要 人材の紹介が必要 (雅楽の愛好者の多い自治会紹介)</p>
<p>事業スケジュール (別紙添付でも可)</p>	<p>(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2010年1～5月準備委員会 (国際交流ネットのメンバーが中心になり委員の増加よびかけ) 2. 5月・・・チラシ、応募用紙の作成、配布 3. 6～8月・・・公募の集計と内容分類、エントリー表の作成 審査員の打ち合わせ 4. 9月・・・本番と結果発表 (高校生の記者も活躍) 5. 10～1月・・・国際交流や学園祭に紹介の機会 (希望のみ) 6. 1～2月 反省会&報告書の作成
<p>事業効果</p>	<p>(事業に取り組み、市民がどのような効果を受けるか。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海王丸パークの活性化 2. 国際交流 (高校生も委員) の浸透 3. アイデアの発掘：林魚業の工夫した特産品を紹介する：ふるさと自慢特産物を工夫したアイデア商品を景品にする。そのままの生モノでなく加工された特産品も発掘できる。 例：竹炭 ：干物 ：野菜&果物の保存加工品

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 特定非営利活動 ユビキタス新湊

<p>事業の名称</p>	<p>内川でカヌー教室協働事業</p>	
<p>事業の目的</p>	<p>(解決すべき地域課題と市民ニーズ)</p> <p>市民に親しまれている内川で、カヌー・ヨット・船・海・内川・人の好きな者達が集まり、傍観者でなく、自らの経験と関心に沿いながら、課題を見つけ、その解決に向けて自発的に行動し、より深く内川の良さ、素晴らしさを知ることにより、郷土愛を育み、自然と人とのかかわり等を広げることが目的と致します。</p> <p>市内当事業支援実践者 30人 市内当事業支援対象者見込み数 内川周辺住民、市内小中学生 約1,000人</p>	
<p>事業内容</p>	<p>対象</p>	<p>(どこで、だれに等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内在住・在勤で内川の賑わい支援に興味のある方 ・ 市内の内川の賑わい支援実践者 (市職員を含む) ・ 市内在住・在勤でカヌーに興味のある方 ・ 市内・在勤で内川の水環境の保全に関心のある方
	<p>手法</p>	<p>(いつ、どのように、何を等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カヌー教室の開催 5月、6月、7月、8月、9月 年5回の開催 <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全な川遊びについて ・ 内川の自然観察 ・ カヌーの操縦技術等 <p>カヌー・船(ヨット)経験10年以上の者が指導し、実際にカヌーに乗り、自分達の体験や考えを出しながら、グループで共有していくワークショップ形式で開催する。 ※講師は、鶴川 満氏にお願いしている。カヌーを始めアウトドアに経験豊富で、指導力がある。</p>
	<p>目標</p>	<p>(目的とする結果、数値基準等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加目標 30人以上 ・ 市内の支援者 15人から50人に増やす。 ・ カヌーが好き、内川が好きな市民を多く育てる。 ・ 内川を市民に愛される憩いの場にする。

協働事業として取り組むことの必要性	<p>(団体や行政の特性から説明してください。)</p> <p>内川の環境保全等は、行政やNPOだけの市民や実益を受ける関係者だけがやるというものでは、もはやなくなっている。協働で地域を応援するか考えていかなければならない。この事業を成功させるには、市民とボランティアと欠かせないのは、市職員と一緒にワークショップの参加が不可欠であり、お互いの事情や考え方を知り、双方の今後の活動に生かす必要がある。</p>
役割分担	<p>(提案団体が果たす役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カヌー教室の企画・運営・講座終了後のフォロー ・ 体験するための、カヌー、ボートの援助をする。
	<p>(事業実施に伴う市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カヌー教室の広報・会場提供・市職員への参加案内
事業スケジュール (別紙添付でも可)	<p>(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール)</p> <p>カヌー教室は年間5回開催し五月から九月までに行う。 カヌー保管場所は、8月ごろまでに、決定する。 カヌーは常時内川に係留して、直ぐに乗船出来る様便利を計りたい。 月に一回必ず、仲間との定例会合、交流をもつ。</p>
事業効果	<p>(事業に取り組み、市民がどのような効果を受けるか。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座を終了したひとたちを対象に活動支援などを行い、内川に関心を持つ人が増えるので一緒に協働し、よりきめ細かな支援を受けることが可能になる。 ・ カヌー愛好者生まれる事により、賑わいができ、市民が内川に誇りを感じる様に成り、郷土愛が強まる。 ・ 市職員も参加することにより、官民を問わず、参加者同士が情報交換を行い互いを理解し、連携することで、より質の高い支援を実現できる。
事業展開	<p>(協働事業終了後の事業展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座を終了した人たちを対象に活動支援などを行う。 ・ 県内各地のカヌー愛好者を内川に集め交流会を開き、射水の美味しい寿司や海の幸を堪能してもらいたい。 ・ 市民の賛成を得ることが出来たら、竜宮のつかいのレプリカを造り、内川のシンボル(伝説を含めて)で、観光客にも来て頂きたい。 ・ 平成22年度末までに、NPOによる活動に移行する事により、市の事業の協働の担い手になるようにしたい。 ・ 帆船海王丸展帆ボランティア500名と提携して、事業の活性化を計りたい。